



ARGONAUTES

別府大学図書館報

アルゴノートNo.53

CONTENTS

ダウンロード 300 万件を突破した
10年目の本学機関リポジトリ … 石井 保廣
雑誌『芸苑』と『をだまき艸』 …… 吉岡 義信
図書館員のお薦め本
短期大学部食物栄養科・附属図書館共催企画
『魔女の宅急便』カフェ、館内展示「角野栄子さん著作本」について… 岩本 治美
わが著書を語る …… 佐藤さくら
2018年に出版された教職員の図書



ダウンロード 300 万件を突破した 10 年目の本学機関リポジトリ

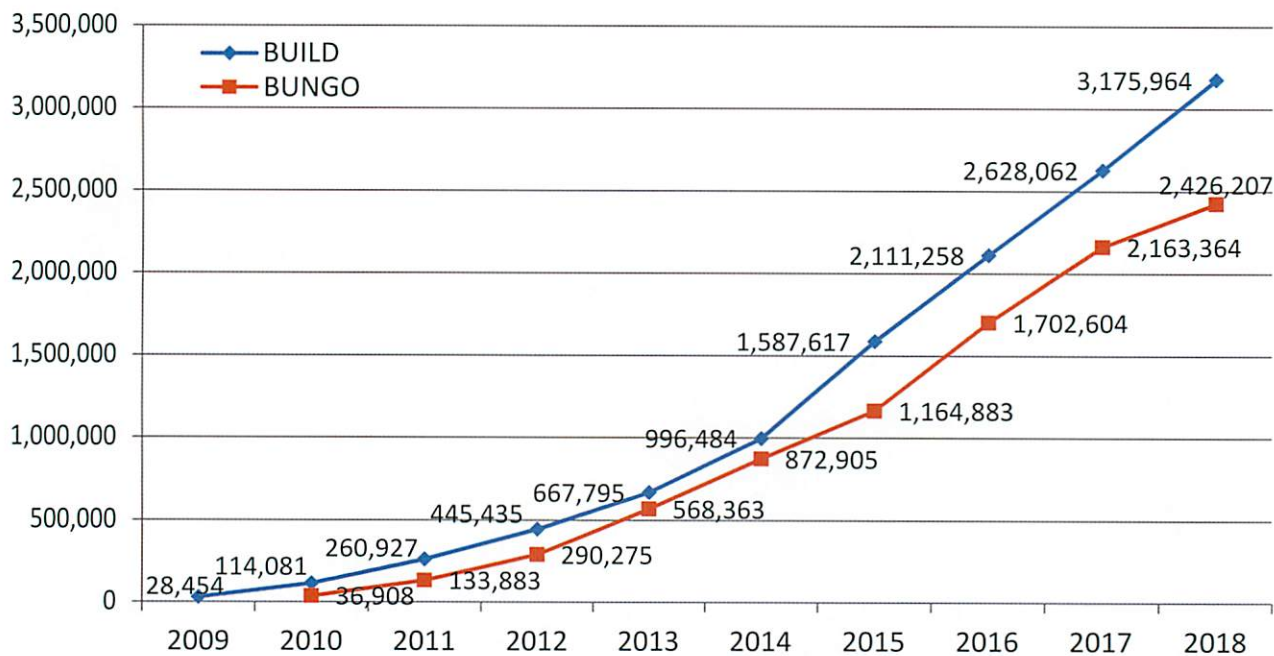
石井 保 廣

図書館では、本学の知的生産物である論文・報告書の文献を 2009 年より機関リポジトリ“BUILD”（Beppu University Information Library for Documentation）と命名し、インターネット上で広く公開してきた。これらの文献は、10 年目となった 2018 年 12 月末の時点で、3,175,964 回の原文ダウンロード件数に達した。これは、文献複写の提供（受付という）が 300 万件あったことに相当し、引用される機会の広がり期待できる。ちなみに、2016 年本学全蔵書の文献複写受付件数は 327 件であった。（日本の図書館 2017 調べ）

さらに、本学では全国でも珍しい（唯一と思われる）県内の学・研究会の文献を地域連携の一環と運用している公開サーバ、“BUNGO”（Beppu University and oita reGional society for co-Operation）を合わせると、500 万回を超えるという驚くべき数に上っている。

本学での機関リポジトリ公開は節目の 10 年を迎えるにあたり、これに関わった者の一人として、どこかでレビューをしておく必要があると考え寄稿した次第である。

文献ダウンロード数の累積



1. 機関リポジトリとは

大学や専門機関において、組織内で生産された紀要や研究報告など知的情報を「機関リポジトリ」として、データベース化し、インターネット上で公開されるようになってきた。これらの情報

は二次資料としての書誌情報の検索に加え、ダウンロードすることによって原文まで入手できる仕組みになっている。

わが国では、国立情報学研究所（以下、Nii）を核に 685 機関以上の組織が、大学紀要、研究報

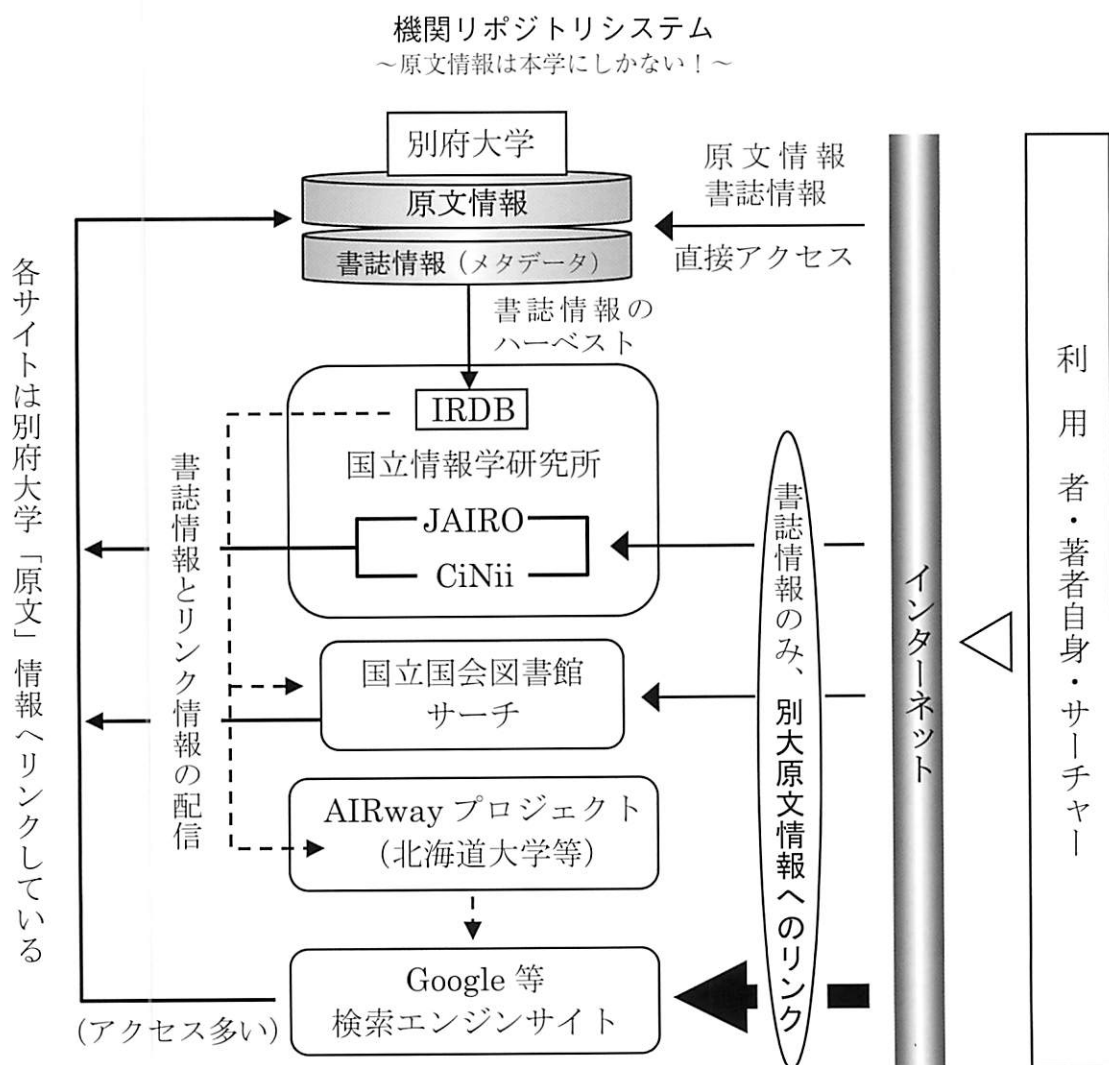
告、学位論文など286万件(うち原文あり217万件)に及ぶ文献を公開している。公開されたコンテンツのうちメタデータと呼ばれる書誌情報(二次情報)は、NiiのCiNii ArticlesのほかGoogleなどの検索エンジンで、多様なサイトでアクセスが可能であり、文献情報の可視化が飛躍的に向上し入手も容易になった。

印刷物と比較した機関リポジトリの利点

- ① 365日24時間どこからでも論文を見ることができる。
- ② 可視化が増し、引用される機会が増える。
- ③ 多様な観点のアプローチが可能。(著者、論文名、

キーワード、雑誌名、所属など)

- ④ 印刷物の発行部数を必要最小限にとどめることができるため、保管場所が不要。
- ⑤ セルフアーカイブ(個人が直接リポジトリシステムに登録)が可能のため、著者自身が発表論文を出版することなく公開することもできる。
- ⑥ 公開後も改訂・更新が可能となる。
- ⑦ テキスト以外に、音声や動画も可能。(BUILDには、動画も収録している)
- ⑧ 書誌情報がNiiによって書誌情報がハーベスト(吸い上げ)され、多様なアクセスポイントへ配信される。(本学では、月1回ハーベストされている)



2. 運用

2007年文部科学省の後押しもあって、国立大学を中心に機関リポジトリがスタートした。そのほとんどが、海外のソフトウェアを使ったシステムであった。

本学の機関リポジトリは、2008年九州の私立大学では初という嚆矢の役割を果たし、文献の収録数においても地域連携のリポジトリ BUNGO を合わせると、次点の大学の倍以上となっている。この結果、冒頭のダウンロード数に結び付いたと考えられる。

これには多くの幸運に恵まれたことが大きな要因だと考えている。以下、時系列に述べてみたい。

①開発元の理化学研究所や連携する慶應義塾大学

と共にシステムを進化できたこと

理化学研究所で開発された機関リポジトリシステム (XooNips = ズーニップス) の修正や改良に関して別府大学がユーザの立場から深く関わることができた。また、さまざまな障害に対しても、理化学研究所・慶應義塾大学からスピーディな助言を得ることができた。

②講義での登録演習で実データの一部を登録できたこと

2008年から、旧司書科目「情報機器論」で2年間、実際の登録を兼ねて演習を行った。わずかな件数ではあったがテストデータを兼ねて、リポジトリ (BUILD) の構築に際し大いに役立った。

授業風景



③メディアセンターのバックアップがあったこと

2系統のリポジトリのうち、BUILD システムを構築していただいたことや、インターネットの設定などの技術的な支援も得られた。

④外部資金が長年確保できたこと

Nii から「最先端学術情報基盤整備 (CSI)」として平成 20 年度 (2008) から平成 24 年度 (2012) にかけて採択され、文献の登録が過去に遡って整備

が進む。2008年～2012年のピークは、この外部資金と同研究所で登録支援も行っていただいた結果であることが大きな要因である。

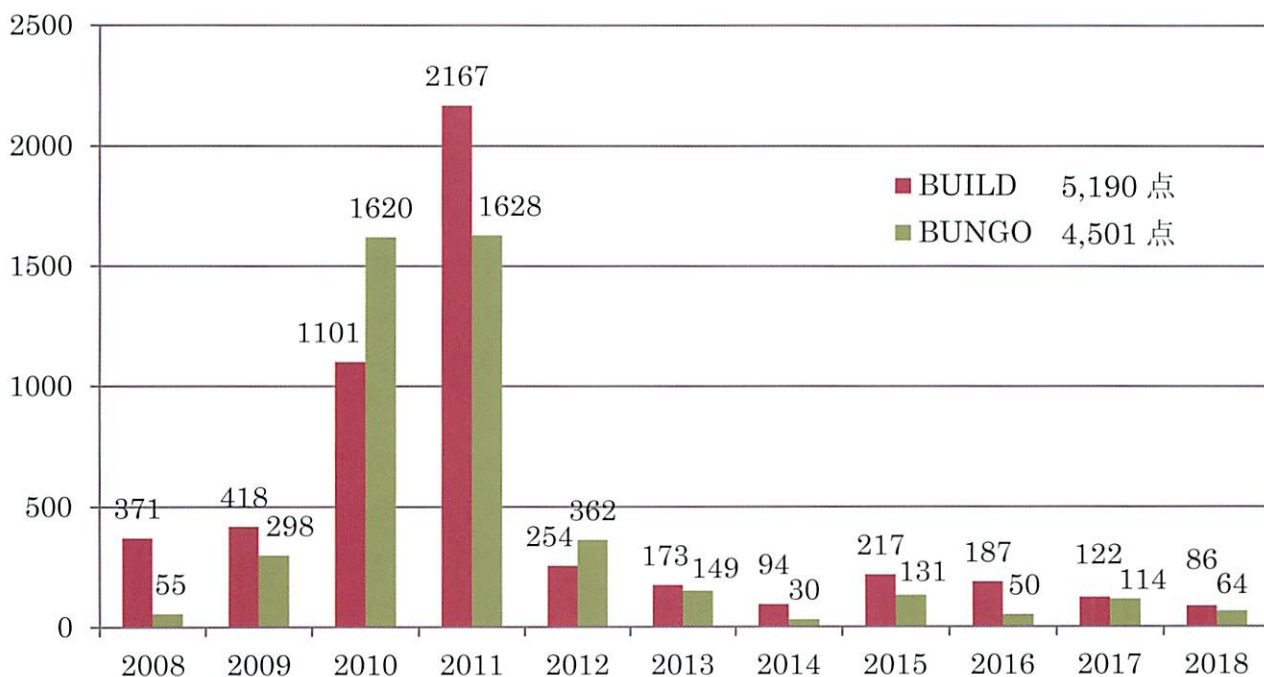
⑤学内の先生方の理解と支援

リポジトリの運用にあわせ、紀要等の文献には抄録・キーワード・執筆者のヨミなどメタデータの必要項目が徹底された。さらに、各紀要編集委員会からは、電子化された原文データ (ポーンデ

デジタル) が提供されるようになり、リポジトリ登録の効率化と画像の精度上がった。これはひとえに、リポジトリに対して、“知的情報”の生産者

である先生方及び各紀要編集委員会のご理解の賜物であろう。

年別の文献登録数



10年間の足跡

- 2008年4月 司書課程の演習教材として、理化学研究所・慶應義塾大学が開発した純国産のソフトウェアによるプロトタイプの機関リポジトリ運用
- 2008年7月 学術機関リポジトリ構築連携支援事業（領域2）採択（Nii）
- 2008年11月 本学でワークショップ「XooNlpsを基盤とした新しいリポジトリシステムへの取り組み」開催（2日間）
- 2009年6月 **機関リポジトリ正式公開（BUILD：本学教職員の知的生産物）**
- 2009年6月 学術機関リポジトリ構築連携支援事業（領域2）採択
- 2009年12月 別府大学機関リポジトリ管理運用指針制定
- 2010年1月 **地域連携のためのリポジトリ公開（BUNGO：県内の学協会・研究会）**
- 2010年7月 学術情報機関リポジトリ構築連携支援事業（領域1）採択
- 2010年9月 地域連携の一環として、国東市の三浦梅園資料館所蔵の「贅語」公開
- 2011年1月 本学で一括登録システム「アシスト君プッ」開発
- 2011年7月 学術情報機関リポジトリ構築連携支援事業（領域1）採択

2012年7月	学術情報機関リポジトリ構築連携支援事業（領域1）採択
2013年4月	文科省学位規則の一部改正（博士論文のインターネット利用による公表）
2013年4月	前記を受け、リポジトリでの公開を前提に本学学位規程改正
2018年8月	BUNGOシステムをメディアセンターへ移設
2018年9月	BUILDのダウンロード件数が300万件突破

4. 課題と展望

この10年間築き上げてきた本学の知的財産公開は300万件のダウンロードを見るに至ったが、さまざまな課題も残っている。以下、課題と展望について私見を述べたい。

①著作権

機関リポジトリで留意すべき著作権は二通りある。第一は、著作権の侵害が非親告罪になろうとしている昨今、文献の透明化によってさまざまな案件も誘引される可能性がある。先生方には引用作法などご苦勞もあろうが、オリジナル性の高いもの・ユニークなものを含め、さまざまな論文を提供していただければ、別府大学の知的生産物発信のエンジンとして、機関リポジトリはさらに充実すると思われる。第二は、著作者の公開承認で、現行は各紀要編集委員会で公開承認をいただいているが、1950年代からの古い時代の文献については、著作権者である著者の連絡確認ができず公開承認に至らない文献も多い。特に、物故者に対しては著作権継承者などを探し承認をいただくなど多大な作業が生じ足踏みの状態となっている。

②共有リポジトリサービス

国公立大学図書館協力委員会とNii間の連携・協力協定に基づき、2016年7月に設立されたコミュニティ「JPCOAR」が設立された。5つの重点目標の中で、「リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用」がある。具体的には、JPCOARが運営するクラウド型のリポジトリシステム（WEKO）の普及にある。2012年このシ

ステムの提供で、これまで、260機関前後であった機関リポジトリシステムは未実施の大学のほか、システムをWEKOに移行する機関、システムは自前でコミュニティのみに参加する機関など2018年9月現在578機関が参加する組織となっている。

このシステムの利用によって、セキュリティを含むシステム・サーバー管理から解放され、コンテンツ登録に集中できることを謳っている。一方で、加盟することによって、会費・システムの課金がかかること。原文情報の帰属の問題。自由な分析による諸統計の作成。後述する査読環境、研究者情報へのリンクなどカスタマイズが困難となることが問題として残るが他機関との連携・協力を含め、今後検討していく必要がある。

③DOI

最近学術雑誌の論文や引用文献でDOI(デジタルオブジェクト識別子 = Digital Object Identifier)の付いた記事が多くみられるようになった。本学でも、DOIの付与に関し一部の先生から問い合わせもあった。

DOIは、個々の論文にユニークな識別子を付与することによって、インターネット上でURL検索するとDOI登録機関で実際のURLに変換され、一般に短い識別子で直接その文献を参照することができる。Niiは日本唯一のDOI登録機関(JaLC)の正会員であり、機関リポジトリを公開している大学は準会員として、無料で登録してもらうことが可能で、DOIコードは準会員が付与

DOI の例

DOI : <http://10.xxxxx/dk05012> ← 機関番号 / 論文番号

↓ (DOI 登録機関によって変換)

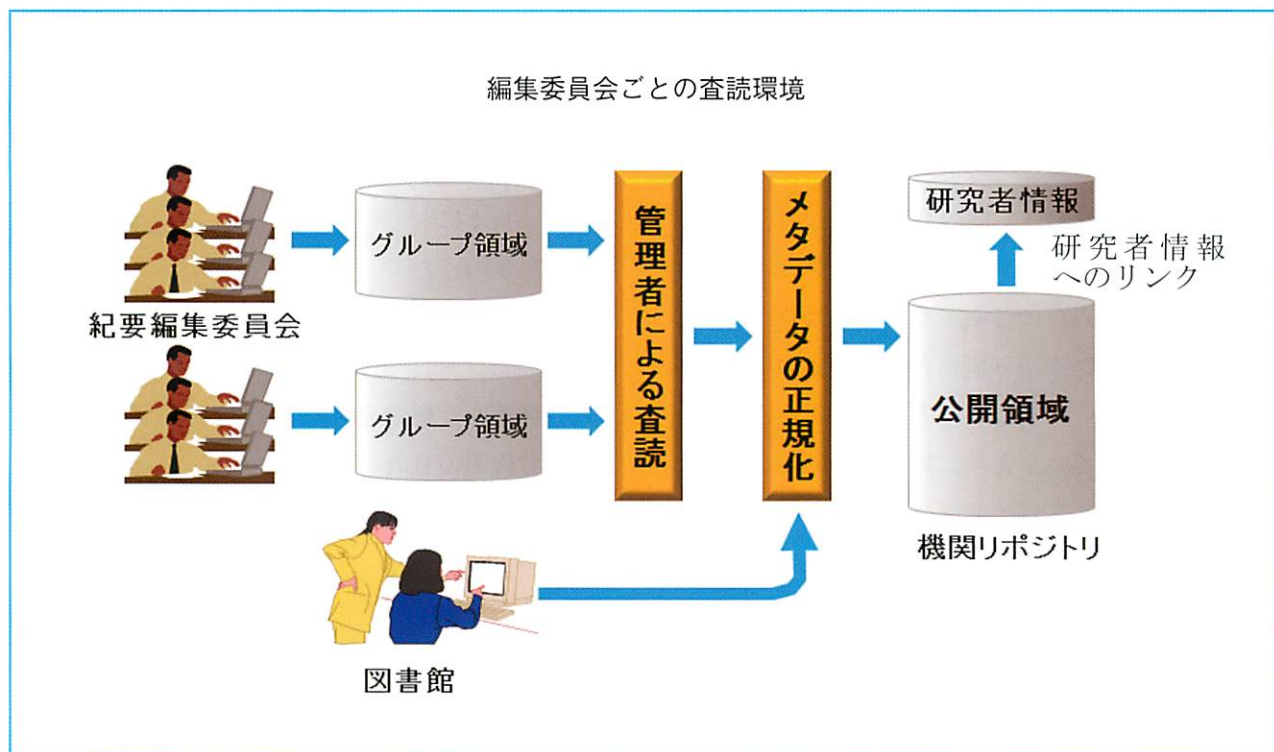
実際の URL : [http:// http://repo.beppu-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=dk05012](http://http://repo.beppu-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=dk05012)

することができる。

DOI の採用にあたっては、機関リポジトリを運用する図書館独自で行うものではなく、論文固有のコードとなるため、学内の各紀要編集委員会の意向に沿う必要があり、調整が必要となる。

④各紀要編集委員会への査読環境の提供

本学のリポジトリシステム XooNips には、グループ別にプライベートな領域を提供し、グループ内で自由に書き込み・編集・閲覧が可能な環境を持っている。この機能を利用することで、査読後グループ内の管理者が公開領域に文献をアップすることができる。



⑤研究者情報へのリンク

いつの頃からか、各文献から研究者情報へのリンクが切れている。大学の研究者情報の URL が変更になったと思われる。読者とのコミュニケーションや外部機関との連携・支援の機会も得やすくなる。少なくとも希望される先生方だけでもリンクを張ることができないだろうか。

以上、リポジトリが図書館情報という本職とも関係が深く、別府大学に奉職して大変思い出に残る出来事であったので、縷々本学の機関リポジトリについて書き連ねてきた。説明不足の点ご容赦賜りたい。


(別府大学 客員教授)



雑誌『芸苑』と『をだまき艸』

吉岡義信

本誌 51 号と 52 号で文化学院時代の雑誌『アルゴノート』と『AVRIL』について紹介しましたが、昨年（2018）3 月寄託された佐藤義詮先生関係の文書類の中に『芸苑』第 3 号を発見することができました。この雑誌は中込純次氏の「文学に現れたパリ」の「おもいでの糸」に次のように紹介されています。



それから私たちは「芸苑」という新聞というか雑誌を出した。私が題名のことと晶子を訪ね相談した。「芸苑」というのは上田敏が出していた雑誌の名であるから、それがよかろうということに

なり、それに決めたのであった。晶子は裸足でいつものように、書齋から現れたが、敷島の灰を手の平で受けながら、歌がいつも胸にこみあげてくるのを、おさえているように見うけられた。この雑誌は三号までタブロイド版で出て、四号から雑誌形式になったのだと思う。紀元が表紙を書いた。煙があがっている巻煙草を持つ手である。筆者は秋田玄務、富田達、吉川由貴夫、高木正己、井上広雅、佐藤義詮、西脇マジヨリ、石川四郎、江川正久、吉川一枝、前沢絢子、それから私である。四号が出たのは昭和二年十二月だったが、それが最後だったかもしれない。

これによると、3 号までタブロイド版で 4 号から雑誌形式になったとありますが、実際は第 3 号も雑誌形式であったことが判明しました。1927（昭和 2）年 11 月発行で、発行所は文化学院大學部文藝部となっており、表紙はポシエールが書いている。以下目次により内容を紹介しておきたい。

パルナツス派の詩人シュリー・ブリュードム	秋田 玄務
創作 高原挽歌	高木 正己
漫言	三宅幾三郎
詩、黄色いチューリップ（他二篇）	中込 純次
都會詩篇	鹽見 毅
椿姫	高津 三吉
墓碑（他二篇）	吉川由貴夫
あなたの髪の毛のやうに	井上 廣雄
Poëtica Ignorantia	GYCENTIUES
花（凸版）	大田 貢
Lapsus calami	佐藤 義詮
短歌、無題	堀 壽子
秋	吉野ひとみ
折々に	前澤 琴子
秋のうた	小柳喜代子
和歌雑詠	川村 漣三
白丁	Y Y 生
近代佛蘭西音樂覚え書	鎌野 直彦
研究會提唱の意義	末廣 治人
俳句、花茨	藪 秀野
句	扇屋 とく
海（凸版）	大田 貢
雑報、編輯後記	

『をだまき艸』も同じく「おもいでの糸」に次のように紹介されている。

その翌年、学院から「をだまき艸」が発行された。いま私の手元にあるのは創刊号である。この号に



も記事が出ているが、私たちは学院大学部が四年制だったのが、突如三年制に変更になり、まだ学び足りなかったか、遊びたりなかったかして、「文化学院研究会」というものをつくり、別に先生たちの講義を聞くことにした。当時の大学部の校舎の一隅を借り、週三日か四日か集った。いわば大学院のようなものであった。それは予定通り一年続いた。(中略)「をだまき艸」の創刊号の内容は次の通りである。

秋風抄	晶子
虫名原語原考	寛
或る婦人の手紙	岡邦雄
美術部の社会的進出	柏亭
節子姫とアヤちゃん	秋骨
坊ちゃんの空想から	伊作
アメリカ日記	アヤ
巴里便り	村井添田
文化学院研究会	中込

題字は寛、表紙は柏亭、編集人は河崎夏子になっている。

本年度 二科會出品目録 (ABC順)	山下新太郎(會員) 小 佐藤氏の肖像	映畫撮影 S 氏 氏 氏
(教授作品)	風樹園の夏	
赤城 泰舒	山 木 像 女	
赤い上衣	千 肇 明	
千 肇 明	濱 内 風 景	

この『をだまき艸』の創刊号は、熊本県立図書館に所蔵されており、表紙、目次、奥付を複写依頼し取り寄せたところ、たまたま奥付の前頁に「本年度二科會出品目録」という記事があり、その中に西脇マヂヨリの「果樹園の夏」「佐藤氏の肖像」が記載されていた。

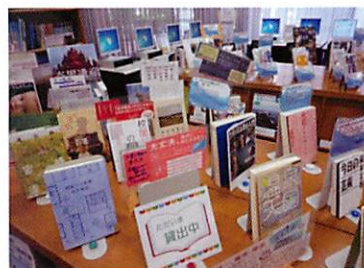
この「佐藤氏の肖像」というのは、18号館(佐藤義詮記念館)2階の大学史展示室に展示されている創立者佐藤義詮先生の肖像のことである。
(附属図書館事務次長)



図書館員のお薦め本

— 2018年度第1回館内展示 7月2日(月)～9月29日(土) —

仲嶺真信館長をはじめ職員5名がそれぞれ読んで面白かった本、視覚的に楽しめる本、印象に残っている本など、あまり深く考えすぎずに、純粹に好きな、お気に入りの本を紹介、図書館の蔵書以外に個人の蔵書も持ち寄り、紹介文のポップも作成し展示しました。初めての試みでしたが貸し出される本も多く、利用者からは「読んで面白かった」、「こんな本もあったんだ」という感想も聞かれ思った以上に好評でした。



短期大学部食物栄養科・附属図書館共催企画 『魔女の宅急便』カフェ、 館内展示「角野栄子さん著作本」について

岩本治美

短期大学部食物栄養科と附属図書館との共催で、10月24日から26日の3日間限定の『魔女の宅急便』カフェ、『魔女の宅急便』原作者で児童文学作家の角野栄子さんの著作本の展示、学生による創作料理の写真の展示を附属図書館の本館1階閲覧室にて行いました。

これらの企画は、11月に大分県立図書館で開催された国民文化祭記念講演会「角野栄子講演会」とのコラボ企画として、食物栄養科の学生が『魔女の宅急便』をイメージした創作料理が同図書館内のカフェで期間限定のメニュー化、“育ドル娘”のステージ発表等が催されることになり、「学内でも『魔女の宅急便』に関連した、学生に楽しんでもらえる企画を是非一緒にやりませんか?」という立松学科長からの提案がきっかけで実現しました。

『魔女の宅急便』は1985年に出版、1989年にスタジオジブリ制作によりアニメ映画化され、今

なお多くの人々から愛され続けている作品で、原作者の角野栄子さんは400点近くの児童文学作品を発表、2018年には「国際アンデルセン賞作家賞」を受賞されています。

著作本展示コーナーには本学所蔵の『魔女の宅急便』、「アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ」、自作絵本や海外の翻訳絵本、『魔女の宅急便』映画公開当時の「キネマ旬報」、インタビュー掲載雑誌を含む約60冊を展示し、展示のレイアウトは作品の素敵な世界観が伝わるような工夫を随所に凝らし、図書館員も楽しみながら取り組みました。

『魔女の宅急便』カフェは特別に館内で行い、事前に無料整理券60枚を学生に配布し、メニューは食物栄養科の学生の創作スイーツ“時計台のワッフル”と紅茶を提供しました。カフェとあわせて、創作料理24品の写真の展示も行いました。

試食した学生からは「今後も作品と食の楽しい企画を学内でしてほしい」といった声があり、今回のような“読書と食”を掛け合わせた試みを通して、作品と作家の世界に親しむ機会をつくることの大切さを附属図書館として改めて考える貴重な経験となりました。(附属図書館司書)



わが著書を語る

『田染荘のトンボ図鑑』

自費出版
2017年3月30日発行
3,780円
34頁

別府大学歴史文化総合研究センター 非常勤

佐藤 さくら



重要文化的景観の中で生きるトンボたち

私が田染荘のトンボに携わるきっかけとなったのは、2008年に私が非常勤として歴史文化総合研究センターに勤務しはじめたことだと言ってもいいでしょう。この年初めて田染荘の御田植祭に行き、とても美しい里山の水田に心を奪われました。当時、別府大学では、大分県豊後高田市にある田染荘の重要文化的景観選定に向けて、報告書を作成中で、先生方を中心に調査研究が行われていました。そんな中、飯沼賢司先生が「文化的景観には生物多様性も視野に入れたい」と提案されました。その話を聞いた私がトンボ好きだったこともあり、調査に加えてもらいました。トンボ調査には、1ヶ月に1～4回行き、目視による観察メモと写真撮影で記録を取りました。この調査で私は49種類のトンボを撮影することができました。専門家の調査と合わせると田染荘で見られるトンボは53種類となります。調査で分かったことは、トンボは実に人間のつくりあげた、里山の農村景観の中で生きているということでした。トンボは、幼虫のときは水生昆虫として生きます。トンボの幼虫をヤゴといいますが、ヤゴの生息場所は、主に溜池、小川、井堰、河川、湿地です。ヤゴは成長すると羽化してトンボになります。羽化したばかりのトンボは未成熟で、動きも鈍く、飛ぶのも危うい状態です。そこで必要なのは身を隠す山の木々や草の茂みです。まさに田染荘の里山の自然はトンボ生息にとってなくてはならないものでした。トンボは成熟すると交尾をするためにオスとメスが水辺にやって来ます。そこで私が待ち構えて、トンボの記録を取るわけです。

田染荘は、2010年8月に重要文化的景観に選定されました。私は選定後も継続してトンボの調査をし、これま

での調査の結果をまとめたいと願っていました。それは田染荘という文化的景観の生物多様性が未来永劫このままの状態で保全されるか分からないからです。近年懸念されているのは農薬による赤トンボの減少です。異常気象や地球温暖化も深刻な問題です。産業革命以前に比べて気温が1℃上昇していることは、自然界にとって大きな変化です。田染荘でも南方系のトンボであるハネビロトンボが確認されました。これから南方系のトンボが北上してやって来るでしょう。また台風による環境の変化もありました。雨引社の小川では、毎年のようにベニイトトンボ（準絶滅危惧種）が見られましたが、2014年秋の台風で、小川の土砂が数メートル流され、そこがちょうど産卵場所だったため、翌2015年には数が激減し、その後ベニイトトンボは見られなくなりました。このように自然界では時として劇的に環境が変化します。

そこでトンボの記録を残す試みとして出来上がったのが、『田染荘のトンボ図鑑』です。分かりやすいように写真を中心とした図鑑形式のフォトブックで、特徴はトンボがどこで見られるか記載していることです。文化的景観と生物多様性を考えるとトンボは、自然環境のバロメーターの一環を担っているのではないのでしょうか。最後に、私の願いは、「未来の子供たちにも農村景観の中でトンボが飛び交う風景を見てほしい」ということです。

著者紹介

佐藤さくら (SATO Sakura)

別府大学歴史文化総合研究センター 非常勤



2018 年に出版された教職員の図書（図書館受入分）



『梅崎春生研究—戦争・偽者・戦後社会—』

高木 伸幸著（国際言語・文化学科教授）
和泉書院 2018.1

『文字の消息』

澤西 祐典著（国際言語・文化学科講師）
書肆侃侃房 2018.6



『芥川龍之介選 英米怪異・幻想譚』

澤西祐典、柴田元幸編訳
岩波書店 2018.11

『日本史のまめめめしい知識 第3巻』

日本史史料研究会編
岩田書院 2018.9

「南宮山からの撤退戦についての毛利秀元発給の感状」
白峰 旬（史学・文化財学科教授）



『地域文化の再発見—大学・博物館の視点から』

日高 真吾編
大学共同利用機関人間文化研究機構国立民族学博物館
日高真吾研究室 2018.12

この本は2017年10月本学で開催されたシンポジウムの記録です。

「基調講演 国東半島における世界農業遺産の取り組みと大学」

飯沼 賢司（史学・文化財学科教授）

「地域の文化財保護における大学の役割—複合的な文化財情報の構築と活用のために」

渡辺智恵美（史学・文化財学科教授）

「竹田市宮城・城原地区における学生による民俗調査と祭礼参加」

段上 達雄（史学・文化財学科教授）

『高次脳機能障害のある人とソーシャルワーク実践—本人の力を活用した援助の可能性—』

林 真帆著（人間関係学科教授）
相川書房 2018.6



『食物アレルギーお弁当のABC』

—食物アレルギーの知識と給食おきかえレシピ・アイデア集—

有田孝司・高松伸枝（食物栄養科学部食物栄養学科教授）・近藤さおり編著
第一出版 2018.8